

名古屋大学博物館 木彫り熊展 2022年2月26日 講演会 質問（名大のアンケート分）

AM

- ・資料「文献から見た大正～昭和初期の旭川」NO2 一部2行が重なって読めません。

大変失礼しました。

大正15/昭和元年か昭和2年にあたる（←石山が彫りはじめた年代のこと）

昭和7年アサヒグラフで近文アイヌが30人ほど彫っていると紹介

の2文です。

- ・八雲には幕末尾張藩の「きびしさ」が残るものがありますか。金鉄組、青松葉事件などの「くやしき」の香りがありますか？

ノンフィクション小説では青松葉事件のいわば後始末として八雲移住を捉える向きがありますが、八雲においてはそのような様相は見られません。よく吉田知行が密使だったから八雲に流されたといわれますが、その後に尾張徳川家の家令を務めたり、義礼侯のヨーロッパ留学に同行したり、徳川家内で重用されています。また当時の雰囲気を書いたものとしては『村の創業』都築省三著がありますが、あくまで親から聞いた話であることに注意が必要です。

PM

- ・尾張藩士の子孫である「和合会」の会員の皆さまは現在も活動していらっしゃるのですか。熊とは関係ないですが。

和合会は平成27年に100周年を迎えて、その歴史をまとめた『改訂和合会史』を出すなど現在も活動されています。

- ・1970年に制作した10体（神木オンコ）はすべて現存するのでしょうか。

何体かは神木オンコと思われる作品がありますが、すべての所在はわかりません。

- ・木彫り熊がほしい場合、どこで買えますか？

八雲の木彫り熊については、亡くなった作者のものはネットオークションや古物商等から買うことになると思います。特にネットオークションは偽物も出回っているので注意してください（資料館では真贋鑑定はしておりません）。現在も作っている作者のものは、八雲町内の店（喫茶ホーラク、kodamado）で在庫があれば買えます。

八雲以外の木彫り熊であれば、道内各地の空港内の売店などでも販売しており、比較的簡単に購入できます。

- ・八雲町内にある尾張町、徳川町など尾張にちなんだ地名も紹介してほしい

午前の講座では紹介したのですが、午後は省略しました。尾張町や徳川町はありませんが、「熱田」＝熱田港から船出した子孫が懐かしんでつけた地名と「春日（かすが、と読みます）」＝おそらく春日井から来ている地名があります。また、町内には「徳川道路踏切」という名前の踏切もあります。

資料館のアンケートにあった質問

AM

- ・北海道で八雲と名をつけたのはこの尾張からもっていったのでしょうか。

徳川慶勝が付けたということはわかっていますが、なぜ八雲にしたのかを示す明確な資料は残っていません。

①熱田神宮に祀られている草薙の剣の持ち主ヤマトタケルノミコトが詠んだ日本で一番古い歌＝はじまりの歌であることからつけた。

②新居での繁栄を願う内容であることから、新しい土地での繁栄を願ってつけた。

等と考えられています。

・曾祖父が八雲から分家転籍で名古屋へ戻ってきたが、下級武士だったこと以外不明なので、一度八雲町へ行ってみたい。どこへ訪ねていいかわからず、今回聞ければと思い参加しました。又家系の歴史が知りたい。

八雲に住んでいた曾祖父の氏名と、可能なら住んでいた年代を資料館にお問い合わせいただければ、徳川農場の移住者であればわかると思います。ただ詳しいことまでわかるかどうかはわかりません。

・ 鮭背負い熊は八雲以外の地域でも多く彫られたのでしょうか

戦前にはそれなりに彫られていたと思いますが、よくわかりません。八雲もまだ記録残った総数はつかめておらず、台帳を見た限りでは多そう、という印象です。戦後ではいろいろなところで作られていたと思いますが、どの程度の量なのかは不明です。

・ 土産物ブームの時にベースにされたのは旭川特徴の熊だけなのでしょうか

彫り方は旭川の木彫り熊（木をヨコにつかう）ですが、例えば奈井江町ではじめて後に札幌へ移転する堀井の特徴を持つ木彫り熊があったり、この形は〇〇民芸店の形とか言われる木彫り熊があるので、コッピングマシンでサンプルにされたものが旭川のものとは限らないと思います。

PM

・ 白老に大きな工場をかまえていた人はどなたかわかりますか？

昭和 47 年にあった会社だと、白老観光物産、荒井工芸、杉林工芸社、阿部木工芸社、寺島民芸製作所、香西民芸製作所の名前がありますが、規模まではわかりません。

・ 旧徳川義親邸（八ヶ岳高原ヒュッテ）の木彫り熊は誰の作品ですか？面彫りでしたが、少し細かいのとちょっとユーモラスでした。

茂木多喜治と若山万之助が、義親邸として建設中の昭和 7 年に、東京に行って彫ってきています。熊だけでなく、アジア風なお面も実は二人の作品でした。

・ ぜひ八雲町へ行ってみたいと（近々）思っているが、徳川家の家臣の歴史を知るにはどこへ行ったらよいかも不明で、問い合わせ先等も知りたかった。

資料館になりますが、わかることは限られます。個々の家臣の歴史については詳しく把握していません。

- ・ハツリ彫りとあるが、名古屋～岐阜では方々で●●●（立派な、か？消した跡もあり、読めませんでした。すみません。）一刀彫りで仏像を彫った「円空」の作風が似通っている。その影響？

柴崎は円空の仏は見たことないとインタビューには答えています。また、円空は片刃のナタで制作していますが、柴崎は両刃のオノで制作しており、面の感じが柴崎の方が柔らかいといわれています。

- ・愛知県から北海道開拓に移住した人々の歴史が知りたい

八雲のことも徳川農場については詳しい資料がありますが、それ以外はあまりわかっていないことも多いです。全道的には、『北海道在住愛知県人録』が愛知県からの移住者に特化していて、『開道五十年記念 北海道』では愛知県移住者に限らない各地の農場などが取り上げられています。

- ・カムイ（神）としてのクマを巡る話をより深く（北の民族、北海道ならでの…）

北大出版会から出ている『ヒグマ学への招待』『ヒグマ学入門』で、いろんな角度からヒグマについて書かれています。

- ・大谷氏の今後の方向性がイマイチ見えてこない。研究なのか、町おこしなのか、木彫り熊ブームをもっと盛り上げたいのか。

質問扱いしていいのかわかりませんが（苦笑）、せっかくなので回答を。木彫り熊で町おこしをするにしても、そのベースとなる調査研究は欠かせません。調査研究をして史実に基づいた活用＝町おこしをやっていく必要があると考えます。ただ面白い話・来てくれるなら・物が売れるなら・お金が落ちるなら何でもいいとは思いません。私のベースは調査研究と、その成果を還元しての展示や取材対応、文章執筆だと思っていますが、それ以外にも例えば町内の人たちが木彫り熊イベントをやるならば、個人的にでも手伝って町おこししたいと思っています。町おこしで木彫り熊、つまり文化財を活用するということは、文化財が必要とされ、その保護にもつながると思うからです。